

ヒスイハンター ～国石の魅力を探る～

藤本啓二・藤本守美・岡記左子（石ころクラブ）

はじめに

ヒスイが国石に指定されたことをきっかけに、ヒスイに対する興味が高まり、ヒスイ初心者にもやさしい糸魚川で勉強しました。知れば知るほど魅力的で身近な存在である国石ヒスイをより多くの人に親しんでいただきたいと考え発表することになりました。

ヒスイについて

国石に選定された理由

- ①よく知られた、国産の美しい石
- ②世界的な重要性を持つ石
- ③日本人と深く広く長く関わってきた石
- ④今も未来も野外で観察できる石



ヒスイの成り立ち

ヒスイができるためには低温高圧の条件がそろうことが必要であり、地球の中では海洋により冷やされたリソスフェアが地下に入り込む「沈み込み帯」だけ（しかも、約5億年前～約4億年前、約1億5千万年～約8千万年前の期間にだけ）ヒスイが生成される。

元々地中の深いところで生成され白いヒスイ輝石の結晶の集合体であるヒスイが、地表に現れ、きれいな緑色等の色がつくのは蛇紋岩のおかげであり、蛇紋岩はヒスイの恩人。

日本でヒスイが採れる場所

北海道から九州まで日本各地でヒスイが確認されており、近いところでも兵庫県養父市大屋や鳥取県若桜町、岡山県新見市大佐で採取できるが、量・質ともに糸魚川周辺が群を抜いている。

糸魚川ジオパーク

糸魚川市を中心に国の天然記念物に指定されている小滝川ヒスイ峡や青海川ヒスイ峡などヒスイをメインとしたジオスポットが多数存在し、中心的な施設であるフォッサマグナミュージアムでは、ヒスイについて深く勉強ができるだけでなく、海岸等で採取した石の鑑定もしてくれる。

ヒスイハンター

フォッサマグナミュージアムや資料館、ヒスイ販売店などでヒスイの勉強をしたり、地元の人に教えてもらったりしながら海岸をメインにヒスイを探し、採取する人を糸魚川ではヒスイハンターと呼ぶ。ヒスイハンターには雨風をしのぐ雨具等の装具や、波の強いときにも安全にヒスイを採取できるよう長靴や胴長と手作りの器具等がマストアイテムである。

糸魚川周辺の採集ポイント

富山県朝日町宮崎海岸は鉄道や車でのアクセスも良く、海岸近くにはおいしい郷土料理「たら汁」のお店やヒスイ採集で疲れた体を癒してくれる天然温泉施設などヒスイハンターにとって至れり尽くせりのポイントである。

糸魚川市のラベンダー海岸やヒスイ海岸も新幹線が止まる糸魚川駅を中心にヒスイ採集のための施設等が充実しており、特に採取したヒスイをフォッサマグナミュージアムで鑑定してもらうには大変

便利な採集ポイントである。

海岸で拾えるヒスイの特徴

【形状】ヒスイは硬いので、「面があって角があって面があって角があって」という形をしている

【手触り】なめらかで、「すべすべ」「てらてら」している。表面がザラザラなことは滅多にない。

逆につるつるすぎるのは別の石

【色】ヒスイの色は基本的には白っぽい

【重さ】密度が高く、他の白っぽい石に比べ、ずっしりと重い

【結晶】ヒスイは輝石の結晶の集合体なので、表面に「味の素」のような細長い結晶が見える

ヒスイと出会うコツ

- ① がんばって探そう → 根気よく探すことが大事
- ② 白っぽい石を探そう → 緑色の石というイメージを忘れて、白色の石を探そう
- ③ 重たい石を探そう → ヒスイは重たい石、実際のヒスイで重さを覚えよう
- ④ 角ばった石を探そう → ヒスイは割れにくく角ばった石、丸い石は無視しよう
- ⑤ キラキラと輝く石を探そう → 0.1~5mmほどのヒスイ輝石の結晶の集合体のため、太陽光線や強い光を当てるとキラキラと輝く
- ⑥ なめらかな石を探そう → ヒスイは固く、細かい結晶の集まりなので他の石よりなめらかな表面になっている
- ⑦ ヒスイモドキにだまされるな → あらかじめ博物館や地元のヒスイ販売店などでヒスイモドキの特徴を見て勉強してから探しに行こう

by フォッサマグナミュージアム